

向きな姿勢がうかがえます。

■前期課程、後期課程ともに、教員や友だちとの親密な関係性が見られました。「先生は、間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれると思うか」や「友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいるか」の質問事項で、前期課程の回答では全国値よりも高く、後期課程では8割以上の生徒が肯定的に回答しています。これまで学習や行事に協働して取り組んできた効果であると考えられます。

課題のみられる部分

読むこと・表現すること

各教科とも、多くの情報から必要な情報を読み取ったり、取り出したりして考察する問題が出題されています。表現の効果を考え、読み取る問題、示された解答方法を自分の言葉を使って的確に表現する問題、実験の結果を自分の考えを交えながら表現する問題など、読み取る力と同時に表現する力が求められます。この力は「書くこと（書く

能力）」にも大きく関わってきます。日頃の授業の中で、学習指導要領の各領域における育成すべき力を関連付けながら、学習活動や授業展開を工夫することが必要です。

話すこと・聞くこと

後期課程の話すこと・聞くことの項目の回答が全国値よりも大きく下回る結果でした。話し合いの話題や発言を踏まえ、自分の考えを書く設問では、自分の考えが話し合いの話題や発言の内容とどのように結び付いているのか、つながりが分かるようにまとめることに課題がありました。日頃の学習の中で、話し合いの経過を捉えて話したり聞いたりすることや、話し合いの展開に応じて、互いの発言を結び付け、話し合った内容を踏まえて自分の考えをまとめられるように意識することが必要です。

既習事項の徹底

前期課程、後期課程ともに算数・数学の図形の項目の正答率が低く、既習事項の定着を図ったり、手順を追って正解を求めたりする学習の積み重ねが重要だと



考えられます。そのために算数、数学の学習では、定期的に既習事項の確認を行ったり、既習事項を活用したりする問題に取り組むことが必要です。また、基礎的・基本的な内容を繰り返し学習するとともに、達成感をもてるようにスモールステップで練習問題に取り組むことが必要です。

規範意識・自己有用感について

昨年度改善の傾向が見られた規範意識・自己有用感については、前期課程では、「人が困っているときは、進んで助けていますか」の項目の回答が全国値より低く、規範意識について課題

がある結果となりました。後期課程は全国値とほぼ同じ値となり、前回より改善の様子が見られました。生徒と教職員の良好な関係が生徒の自己有用感を高めることに関係していると考えられます。

より一層の推進

興味関心が生きる授業づくり

教科への関心では、前期課程の算数について比較的高い結果となりました。また、後期課程の国語については全国値を上回る結果となりました。国語、算数だけでなく、教科に対する興味関心を高める工夫が必要

となります。また、今後の学習を通じて、「分かった」「できた」という自信がもてる授業や児童生徒の学習に対する興味や関心を引き出し「もっと知りたい」という意欲的な授業づくりをめざしていきます。

タブレット端末・ICT機器のより一層の活用

児童生徒はタブレット端末・ICT機器の活用について、「自分のペースで学習できる」「分からないことがすぐに調べられる」「楽しみながら学習を進められる」「画像や動画・音声等を活用することで学習内容がよくわかる」「友達と協力しながら学習を進めることができる」と考えており、タブレット端末・ICT機器の活用をより一層推進していくことが必要です。そのために、タブレット端末をはじめ、ICT機器を効果的に活用し、一人一人に最適な授業づくりや家庭学習を進めます。同時に、情報リテラシー、情報モラルについての指導を充実します。

ふるさとキャリア教育

地域や社会への関心に関わる質問項目では、前期課

程、後期課程ともに今年度は全国値を下回りました。鳥取県教育委員会は、ふるさと鳥取に愛着と誇りを持ち、郷土を支える人財の育成のため、ふるさとの良さを感じる体験活動の充実を図るとともに、幼児期から高等学校までの各段階に応じたふるさとキャリア教育に取り組んでいます。日野町でも、ふるさと日野町を大切に思う心情を高めるために、自然、歴史、文化、人物等、地域の良さを学び、日野町への愛着と誇りを醸成する「はばたき科」の学習を体系的に行うとともに、体験・探究活動を通して、子どもたちが生まれ育った地域に貢献しようとする意欲を養う「ふるさとキャリア教育」を推進していきます。

■今後の取り組み

■国語の学習では、文章の叙述に基づいて心情を考える学習を充実します。特に、登場人物の心情分析において根拠となる叙述に着目するように促します。また、並行読書を通して、初読の文章に対して身につけた力を

活用できるようにします。

■自分の考えや思いを整理して的確に表現したり、友達の意見と自分の意見を比較しながら聞いたりすることで知識はより確かなものになります。自分の考えと友達の考えを比べ合う時間の確保や、各教科でつけた力を様々な場面で活用するような展開の工夫を図ります。

■「めあて・まとめ・ふりかえり」という課題設定から解決、評価までを児童生徒自身で行っていきけるような、児童生徒が主体となる授業づくりを進めます。また、必要な情報を取捨選択し、効果的に活用することともに、自分の考えを的確に表現できるような機会を設定します。

■「家庭教育・家庭学習の手引き」の活用等により家庭学習の習慣化を図るとともに、学習習慣の定着につながる授業改善等を進めます。

■全国学力・学習状況調査のみならず、他調査や日々の学習状況の分析等を通して、児童生徒個々の状況を把握し、より一層の児童生徒理解や学力の定着をめざします。

地域の子どもは地域で見守り育てよう

～「冬休みの生活について」日野町青少年育成会からのお願い～

もうすぐ冬休みです。お年玉をもらい、子どもたちがお金を使う機会も増え、日常とは違う解放感が広がります。子どもたちを安全に健やかに育てるため、地域の皆さん自らあいさつをしたり、手本になる行動を示したりして、どの子も我が子と同じように接し、地域で見守り育てましょう！

【町内の学校の冬休み期間】

・日野学園 12月25日(水)～1月6日(月)・日野高校 12月21日(土)～1月8日(水)

■『凡事徹底』

「あいさつをする」「返事をする」「履き物をそろえる」…どこでも当たり前のことを徹底しましょう。

■『家庭で育む「生きる力」』

家族のきずなを深めましょう…温かい言葉で心が元気！

早寝・早起き・朝ごはん…規則正しい生活で体が元気！

■『いつでも、どこでも地域の子どもに目を』

・「褒める」と「叱る」を上手に使いましょう。 ・地域の子どもは地域で育てましょう。

・ルール違反に見て見ぬ振りをせず、迷わず注意をしてください。

■毎月第3日曜日は「家庭の日」

温かい雰囲気の中で、家族の対話を図りましょう。

～青少年の心を育てるキャンペーン「大人が変われば子どもも変わる」県民運動実施中！～
あの子もこの子も地域の宝 ひと声かけて育てよう